

多雨の北陸 水の恵みで発展

暑かった夏も終わり、ようやく秋を迎えました。気温も急に下がり、雨模様の日も増え、北陸特有の「鰯^{なぶり}起こし」の季節も徐々に近づいています。昨年、当地に赴任して初めて「鰯起こし」を経験しました。想像を超える激しい雷雨に驚くとともに、雲が垂れこめた空と雨の多い日々に少々気が滅入ったことを思い出します。

このように北陸は降水量の多い地域ですが、実際に住んでみて、こうした気候こそが北陸経済や食文化などの原点であることに気づかされる機会も少なくありません。

まず経済との関係ですが、立山連峰や白山山塊などから流れ出す豊富な水は、水力発電に活用されています。水力発電にかかるコストは相対的に低いため、北陸地区の電力料金は全国的にみても安く、豊富な水と廉価な電力を求めて製造業の集積が進みました。特に精錬に大量の水と電力が必要なアルミ産業が、当地に根付く伝統技術と相まって、富山を中心に大きく発展しました。

北陸で繊維業が盛んになった理由の一つに、雨が多く多湿な気候のため、糸が切れにくいということがあります。繊維業の発展に伴い繊維機械が当地で作られるようになり、繊維機械の技術基盤は工作機械をはじめ多様な分野で活用され、当地における機械産業の発展に寄与しました。また、金沢市が国内生産量のほぼ 100%を占める金箔^{きんぱく}でも、湿気が高く、静電気が起きにくいことが、良質の金箔を製造するうえで重要な条件となっています。

次に食文化にも目を転じましょう。豊富で上質な水は、米作りにも欠かせません。私が大好きな北陸の日本酒も、歴史と伝統に裏付けられた高度な醸造技術が支えていることはもちろんですが、上質な水なしには語れません。

さらに、上質な水は豊かな食材を生み出します。山から流れる清流は鮎^{あゆ}、岩魚^{いわな}、鮭^{ごり}といった川魚を育みますし、伏流水は酸素と栄養分を海に運び、海の幸を呼び込みます。また、豊富な水は豊かな土壌ももたらし、豊かな土壌は山林や草木を育みます。こちらに来て初めて熊料理を食す機会があり、そのおいしさに驚きましたが、白山で育った木の実しか食べないので癖がない上質の肉になるとのことでした。まさに水はすべての生命の源です。

最後に、北陸に美白美人が多いのも、日照時間が短いことと関係しているとの話も聞きました。信ぴょう性はよく分かりませんが、美人が多いことは事実だと思います。

これから雨の多いシーズンに入りますが、こうした気候が北陸に様々な恵みをもたらしていることに気付くと、むしろ感謝の気持ちを持って過ごすことができるのではないのでしょうか。